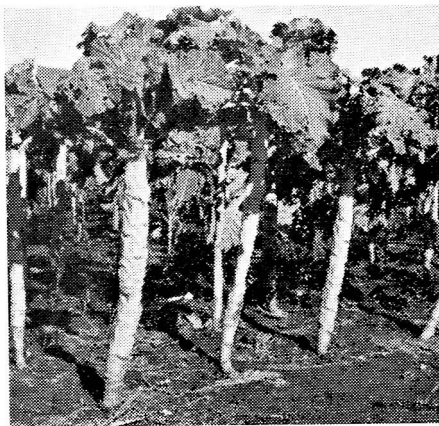


雪印がお奨めする
今後活用したい飼料作物②



ケール
(掻葉かんらん)

球にならず、巨大な葉を広げて上にゲンゲン伸びる「お化けかんらん」です。下葉から順次掻きとつて家畜に与えますと、草丈一・五〜二尺にも伸び、その茎も餌となります。かんらんと同じ方法で栽培します。栄養価が高く、ビタミンも豊富に含まれ、収量も多く、乳牛以外に鶏、豚などの小家畜に与えるのも面白いものです。

作り方はかんらんと同様で、直播か移植をします。肥えた土地に基肥を充分ほどこしますと春播して四〇〜五〇日ぐらい経つてから

掻き始め以後一五日〜二〇日毎に写真のように下葉を掻いて家畜に与えることが出来ます。一回の掻葉量は一〇坪当り一、五〇〇キ以上収穫でき、暖地では夏、寒地では晩秋まで利用できます。また最後に茎(一〇坪当り四、〇〇〇キ)はキザンで与えることができます。

大葉多葉性

ひまわり

とくに青刈飼料作物として弊社上野幌育種場において育成したヒマワリで、収量はラーシラシアンに比べて五割以上の増収である。また非常に葉が多く大きく、開花後に収穫すると葉が総量の四割以上になるため嗜好のよい栄養価の高い飼料として注目を集めております。写真は左から多葉性ひまわり・ラーシラシアン・大葉多葉性ひまわり



デントコーンの欠株補播には、一番除草の際、ひまわりを播種しますと、写真のよう

に刈取る際には、丁度開花始となりデントコーン以上にも伸び栄養の高いいものが収穫できます。

